

国語科学習指導（略）案

1年2組 26名 指導者 野間 なつき

今回の授業で、検証したいことについて述べます。
 課題設定における課題づくりは、単元全体の見通しをもち、自ら課題を発見することや解決に向けての意欲をもたせる手立てとして有効であったか。

1 単元 くちばし くいずをつくろう（教材名「くちばし」）

2 指導計画（総時数11時間） ○重点化する「全ての学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力					
			言	情	問	実	協	振
課題をつかむ	1 教材文や図鑑を読んだり、様々な鳥の特徴を話し合ったりすることで、鳥のくちばしクイズ作りへの見通しをもつ。	1	○					
	2 分かりやすく、楽しいくちばしクイズを作るためには、どのようなことに気を付けて作ればよいか課題を出し合うことで、単元の学習課題や計画を設定する。（本時） 【態：鳥について知っていることを話したり聞いたりして、鳥のくちばしクイズ作りに関心をもち、くちばしクイズづくりの課題解決のための見通しをもつことができている。】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">みんながわくわくするくちばしくいずをつくるには、どのようにつくればよいだろうか。</div>	1	○		○			○
情報情報をもと読み取る	3 鳥のくちばしクイズを作ったり鳥について調べたりするために、図鑑の特徴を知る。 【態：鳥について説明されている絵本や図鑑、文章などを進んで読んだり調べたりしようとしている。】	1	○	○				
	4 教材「くちばし」を読み、問いと答えの関係を捉え、何がどのように書かれているか整理する。	1	○				○	
	5 教材「くちばし」を読み、きつつきやおうむ、はちどりについて問いと答えがどのように書かれているか整理しながら読む。 【思：説明の順序や内容を考えながら読むことができている。】	2	○				○	
	6 教材「くちばし」に出てくる鳥についてのクイズをつくる。 【思：助詞「は」の使い方に気を付けてクイズを書いている。】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">みんながわくわくするくちばしくいずをつくるには、くちばしのかたちやつかいかたがわかるようなヒントをだすとよい。</div>	1	○	○				
主体的に表現する	7 くちばしクイズにする鳥を選び、その特徴を付箋に書き出し整理する。 【思：鳥について説明されている絵本や図鑑、文章などからくちばしの形や役割について書き抜いている。】	1	○	○				
	8 モデル文を参考にしながら、選んだ鳥のくちばしクイズを作る。 【思：事柄の順序に気を付けながら、「そのために」を使って文と文をつなぎながら車の仕事とつくりを説明する文章を書いている。】	2	○	○		○		
	9 1年3組くちばしクイズ大会を行い、学習したことを振り返る。 【態：学年朝会でクイズ大会を行い、これまでの学習を振り返ることができている。】	1	○		○			○

6 本時（2/11）

(1) 目標

くちばしクイズを作ることへの課題づくりを通して、学習の見通しをもちながら学習課題を設定することができるようにする。

(2) 評価規準

くちばしクイズの問題を作るための課題を見付け、見通しをもつことができたか。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

ア 主体的な学びの視点

課題を学習計画の中に位置付けることで、常に課題意識をもって取り組むことができるようにする。また、最後に三つの振り返りの視点で学習の振り返りをする中で、本時で身に付けた力を明確にしたり、次時の課題を見付け、学習に対する意欲付けや見通しをもったりすることができるようにする。

イ 対話的な学びの視点

教師が作成したクイズのエラーモデルから、ペアや全体でクイズを作っていく中の課題について話し合うことで、子供たちがもっている課題意識を多く引き出すことができるようにする。また、出てきた課題の中からくちばしクイズ作りに必要な課題を選び出すことで、この学習を通して身に付けたい指導事項に迫ることができるようにする。

ウ 深い学びの視点

くちばしクイズを作るという言語活動を設定することで、どのようにクイズを作ればよいか、という課題意識をもち、単元全体の見通しをもつことができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 前時までの学習を振り返る。 [・くちばしクイズってどんなものかな。 ・どうやってつくればいいのか。] 2 教師作成のくちばしクイズから気付いたことを発表する。 [・鳥の名前と説明がちがうな。 ・この説明だとわかりにくいな。] 3 学習のめあてを確かめる。 くちばしクイズをつくるには、どのようにつくればよいだろうか。	○ 学年朝会でくちばしクイズ大会をすることを知らせ、くちばしクイズ作りへの意欲を高めることができるようにする。 ○ 教師が作成したエラーモデルを提示することで、みんなに分かりやすく伝わる楽しいくちばしクイズにしていきたいという気持ちを高めることができるようにする。
調べる	35	4 教師のくちばしクイズから、どのようにクイズを作ればよいか考える。 【ペアで：3分】 [・どうやって調べるのかな。 ・どんな順番でつくればいいのか。] 5 考えたことを出し合い、解決したい課題を選ぶ。 【全体で：10分】 [・何を書くかわからないと、くちばしクイズは作れないよね。 ・どんなクイズにすればいいのだろう。] 6 課題を整理し、くちばしクイズ作りで解決すべき課題について考える。 【全体で：10分】 [・絵や写真を入れたら伝わるかな。 ・わかりやすくてたのしいクイズにしたいな。] 7 出された課題から、単元の学習課題を設定する。 みんながわくわくするくちばしクイズをつくるには、どのようにつくればよいだろうか。	問 「くちばしクイズを作る」という課題の焦点を与え、教師のエラーモデルからどのように書けば自分が調べたことが相手に伝わるかを考え、課題を出し合うことができるようにする。 ○ 三つの課題を選ぶ中で、課題の優先順位を付けたり、その理由付けを考えたりすることでくちばしクイズ作りへの課題をより明確にすることができるようにする。 ○ エラーモデルから、鳥の名前やくちばしの特徴などがしっかり説明され、絵や写真などがあると分かりやすいクイズになるということに気付くことができるようにする。 ※ くちばしクイズの問題を作るための課題を見付け、見通しをもつことができたか。(発言・ワークシート) 【主体的に学習に取り組む態度】
まとめる・生かす	5	8 出された課題から、単元の学習計画を立てる。 【けいかく】 ○ 図鑑の使い方を知る。 ○ 「くちばし」でくいずを作る。 ○ 自分で選んだ鳥のくいずを作る。 ○ 学年朝会でくいず大会をする。 9 学習を三つの視点で振り返り、次時への見通しをもつ。 [・学習計画ができたから、クイズ作りを頑張るぞ。]	○ 課題を解決していくことで、相手にヒントが分かりやすく伝わるクイズを作っていくことのできる計画を立てることができるようにする。 ○ 本時での学習や友達との交流を通して考えたことを振り返ることで、次時の学習に向けて意欲付けや学び合いのよさを実感することができるようにする。

